

【1】 日本語を介さずに英語を英語のまま理解する時代

大学入試選抜共通テストの内容が2年連続で全て英語の設問、全て英語の問題の形で提示されました。文科省はかなり本気なのだ、ということは伝わってきます。発音アクセント問題や、文法の小問、並べ替え英作文などの、所謂旧来型の小問はすべて姿を消し、英語で情報検索する、分析する、長い文章の中から最適な情報を掴む、長い文章の趣旨を読み取る、などの問題形式がなされました。文章は今後も長く、大量化することが予測されています。私たち英語の指導者は生徒の入学試験準備の為に現場で英語を教えているわけではない、という前提に立った上で、一方で、子供たちは将来的にこれらの状況に直面し、これを乗り越えていく必要があることを鑑みると、今現在私たちが子供たちに施している英語教育・語学学習指導を振り返り、いくつか新たな視点を持って指導に臨んでいくことが、子供たちの将来にとって良い、と私は考えています。

【2】 これまでの指導法+新たな学習形態のご案内

単語と文法、これはどんな言語を習得する際にも必ず必要ですね。これまで日本の英語教育では、短期間に単語と文法を生徒に習得させる、という目的で様々な工夫を凝らしながら指導に当たってきました。一方で、ネイティブはどのように語彙や文法を習得していつているか、ということ俯瞰しますと、主に単語や文法は、日常会話、読書、学校教育での英語の使用、などが挙げられると思います。日本の英語教育に圧倒的に不足しているのは「会話：英語で話す」と「読書：英語で読む」の2点です。日本語を介さず、英語を英語のまま理解していくことを考えた時、旧来の授業にすぐに取り入れることができるのは「英語で書かれたものを日本語訳を介さずに英語のまま読んでいくこと」だと思います。初歩的で基礎的な語彙や簡易的な文法事項をある程度身につけたら、どんどん英語で読書をさせること、これはすぐにでも授業や課題学習の中で取り入れていくことができる teaching method です。

【3】 私が授業に多読活動を入れた経緯

私が授業の中に「英語多読学習」を取り入れて7年目になります。長文問題集を何度も解かせたり、単語テストを日々繰り返すけれど、読解力は一向に上がらず、語彙習得もなかなかうまくいかない、という状況に困っていた折に、友人の英語教員に「多読のセミナーがあるから来てみないか」と誘われたのが多読を知ったきっかけでした。当時高校の現場にいた私は、「絵本でしょ。高校生は受験あるからペーパーバックや論文、記事を読まないよ力つかないよね。」と半信半疑でした。しかし、多読のメソッド、やり方、実際に実施している学校の実践報告を見聞きし、これならば本校でも取り入れることは可能かもしれない、と思い立ち、高校生に読み聞かせをしたり、図書館から借りてきた本を回し読みさせたりすることから多読の授業を始めました。その後は、少ない手持ちの本を少しずつ、少しずつ買い足しながら多読の授業を続けました。生徒たちは食い入るように英語の本を読み続けました。英語の成績が振るわない生徒も、多読の授業は大好きで、沢山の本を一心不乱に読み耽りました。高校3年生の生徒が、幼い子供が読むような絵本を持ってきて、私に、「先生、この本、読んで」と頼んできた姿は今でも忘れられません。

【4】 中学生の多読活動

高校現場から中学現場へと部署が移り、その後3年間、中学校で多読の授業を取り入れました。同僚の女性の先生に丁寧に多読のガイダンスを行い、多読授業の様子を私が撮影した動画を見てもらったり、授業に見学にきてもらったりして、共に多読授業がやれるよう、現場で働きかけを行いましたので、多読導入はスムーズに行えました。

中学1年生は英語に触れてきた子、そうでない子とかなりばらつきがありますので、英語に初めて触れる子たちが英語を嫌いにならないように、丁寧に指導をしました。教師からの読み聞かせ、生徒同士の読み聞かせ活動、読んだ本の内容を友達に伝える Book Talk の活動、英英辞典を毎日使って英語に触れ続ける活動、自分達で紙芝居を作って発表会、などの活動を継続して行いました。ORT シリーズは小学校から上がってきたばかりの生徒にはうってつけの教材で、生徒たちは楽しんで本を読み続けました。英語の習得が目的な筈ですが、生徒は静かに黙々と読書をし続けているうちに、集中力も身につけていったように思います。

【5】 高校生の多読活動

時間軸は前後しますが、私が多読指導を導入したのは高校1年生が初めてでした。中学生に比べ、ある程度は文法理解や語彙習得が行えている為、導入そのものはスムーズでした。英英辞典を毎時の授業でどんどん活用する、多読の時間の帯活動でスピーキング活動を入れるなどの工夫もしつつ、毎週1コマの多読授業を行うことができました。本校の図書館にはあらかじめ Graded Reader の本がたくさんありましたので、ORT シリーズなどに加え、そのような本の多読も取り入れた他、私が個人的に読んでいる TIME 誌のバックナンバーなども織り交ぜたり、また、もう読まなくなった洋書が家にある生徒に寄贈してもらいながら蔵書を確保していきました。

生徒たちは読み聞かせがとても好きで、毎時の初めに、先生、この本を読んで欲しい、と自ら本を持ってきたり、多読のカートの中から選んでくる子がいたり、と、毎時必ず読み聞かせの時間があつたことが印象に残っています。高校生でもお話しを聞かせて欲しいと言うニーズがあるんだな、と驚いたことを今でも鮮明に覚えています。また、多読授業の際に内職をしたり、おしゃべりをしたり、寝たりする生徒はほぼいません。多読がなぜ必要で、どのように取り組んで、これが将来的にどのような能力の開発に繋がるか、という説明を繰り返し生徒に伝えてきたことが功を奏したのではないかと私は考えています。

【6】 終わりに

生徒に読解力や速読力をつけさせたい、多読活動を授業に導入したい、とお考えの指導者の方は、ぜひこれを機会に授業の中に取り入れてみられませんか、と言うのが私からのご提案です。人から読まされるのではなく、自ら進んで主体的に読書そのものに取り組む姿勢を作ることが可能になり、さらに、第二言語である英語での文章に、教科書以外の場面で数多く触れる機会を授業の中に生み出すことは、生徒の読解力・速読力向上に資する活動となります。

【その他のおすすめポイント】

- ・ 初めは自分の授業の開始 10 分から。同僚にも相談しなくていい。
- ・ 一番安いシリーズから徐々に買い足していくイメージ。
- ・ 音声 CD が難しい場合は、読み聞かせができる。
- ・ 生徒全員分の本を揃えるのが難しい場合は読み聞かせから。
- ・ 同僚に理解をしてもらうのではなく、生徒たちの多読の様子を写真にとっておき、同僚に見てもらう。
- ・ 図書館と相談して、少しずつ本を入れてもらえないか、掛け合う。
- ・ 市立図書館の洋書も借りられる。
- ・ 本の種類は、できるだけばらつきがあったほうがいい。
- ・ 多読は万能な語学学習メソッドではない。かなり有効である、ということ。
- ・ 授業 50 分丸ごと多読をやった方が、集中力、内容理解の継続性という意味で効果が大きいけれど、毎時のスタート 10 分～15 分の帯活動で行うことでも十分効果が高く上がる。
- ・ 多読以外では、スピーキングとライティングの描写活動で ORT を使っています。
- ・ オンラインサービスはがあると便利かも。
- ・ 集中できない生徒へは読み聞かせをしています。
- ・ 簡単なものを大量に読むことが一番大事。あとで伸びない。
- ・ Level 6 が急に難しくなる生徒へは、下のレベルに戻って、ゆっくりと再度、一つのレベルを読破し直すことを進めて、成果が上がった。
- ・ 適切な本の選び方、活用後の生徒の反応や変化、アウトプット活動や評価との繋がり
=>どの学年の生徒でも一番平易なレベルから。OP 活動：描写、感想、記録
- ・ 文字と音声のつながりをいかに定着させるかについて。例えば 40 人クラス。CD の導入無しで多読の時間を持った場合に、生徒に読めない単語が出てきた際の対応。
=>読めない単語は英英辞典、電子辞書、端末などで確認 or 教員が回っているときに都度教える
- ・ Graded Readers のような本を読む前の段階で、まだ「文字ばかり！」とアレルギーを起こす子供たちには、レベルを下げさせて、字が少ない本を一緒に選ぶようにする。
- ・ 本の選び方がわかってない子供もいるので、一緒にカートに行って、本を選んであげるのも大事。

2022 年 4 月

©Oxford University Press Japan

All Rights Reserved